

大地

第 64 号
2021. 10. 25. 発行
浄 國 寺
上越市朝3丁目14-10
☎025-523-5724

【俳句】

山崎 睦

絶間なき落花は頬に心地よし

一転機憂きことさらり更衣

涼風に火宅の我が身鎮めおり

暑き日は暑き顔にて処しゆかん

大雪も小雪も問はず冬囲い

山茶花の花の盛りを囲いけり

句集『朝の光』より

平成十一〜十三年

舌のみにて味わうにあらじ

山崎隆史

食欲の秋とか実りの秋とかいうように、秋は色々な食べ物がおいしい季節です。

人が食べ物を食べて「おいしい」と感じる時、舌で感じる味覚以外にも、色々なものが影響を及ぼしています。

まず、香りです。鼻づまりで香りが分からなくなったら、食べ物の味まで分からなくなつた、という話を聞いたことがあります。香りが味に及ぼす影響は大きいようです。

香りの立ち方や味の感じ方は、温度によって左右される部分が大きいです。ワインなんかは（保存のためもある）温度にとってもこだわりますし、日本酒だって熱燗、ぬる燗、人肌、冷や、冷酒等、最適な温度を選びます。おでんは熱い方が良く、冷やし中華は冷えていた方が良いでしょう。猛暑の中、汗をかいた時には、ただの冷えた水が、この上もなくおいしく感じられます。

舌触りや噛み応えなどのいわゆる食感も重要で、てんぷらの衣はサクサクしているのが良く、お餅は弾力があって伸びるのが良いのです。うどんやラーメンでも、太かったり細かったり平たかったり、色々な麺があります。パスタはもつと色々な種類があります。

湿気てふやけたせんべい、伸びたそば、炭酸の抜けたビールなどは、「おいしさ」が目減りしてもつたないと思います。

他にも、食べ物の見た目、周囲の音や雰囲気も大事です。また、「空腹は最大の調味料」というように、お腹が空いているかどうかはとても重要です。

個人的には、「食べやすさ」も味に影響があると思うのですが、どうでしょう。

ある時、理由があつて利き手と逆の手で箸を使って食事している人がいて、その人が言うには「利き手で食べた方がおいしい」と。きつとこれは、利き手でない方の手で食べる

と何かと不自由でストレスが溜まり、おいしさが目減りするのだらうと思うのです。私も、カレイの煮つけの味自体は好きなのですが、エンガワの所の小骨がたくさんある所が面倒くさくていやなのです。おいしさ一割減の気分です。

ところが、食べにくそうな物ほど好んで食べる人が身近にいます。ウチの父です。父は、タイやブリのカブト煮とかカブト焼きとかが好物です。嬉々として身をほじくり返し、時にしゃぶり、隅々まで食べつくします。

ただ、父にとっては何よりも、酒をおいしく飲めるかどうかがとても重要らしいのですが、まさか、量を過ぎすほど「おいしい」と感じるわけではないですよ？

【俳句】 冬菜畑

昭和町2 風間照子

初松籟未明の詩碑の高みより

春炬燵地図の折り目に京都駅

散り尽す四千本の桜かな

くすみたる長押の遺影春ともし

大なる闇のほぐるる蛍かな

もう君に届かぬ風や心太

秋袷つましき母のひとそろひ

風いつも遊び相手や猫じやらし

雪しんしん地に刻々と古びゆく

黒姫山をドスンと据ゑて冬菜畑

俳句同人誌『汀』より転載

秋分…の日？

山崎 直子

十月に入っても三十度に届くような日が続き、半袖の出番がなかなか減らなかつた今年の秋のお天気も、ようやく落ち着いてきたようです。お盆の長雨で幾分涼しく感じた夏でしたが、例年に比べて気温の乱高下が続き、稲の心配をなされた方も多いのではないのでしょうか。秋分の日を過ぎて、はて秋はどこに？という陽気でしたが、稲刈りの終わつた田んぼはもう次の季節に備えているようにも見えてきます。さて今年の雪はどんな風に降るのでしょうか。うーんくわばらくわばら。

ワクチンの接種も市内では順調に進んでいるようで、「先月終わつた」「熱が出た」「何ともなかった」と様々にお声を聞きました。上越市の方式がTVや新聞で取り上げられたりもして、ご担当の方々にはただただ頭が下がります。希望する全国民に接種を、という前代未聞の試みにおいてどれほどのご苦労があつたか、感謝とともにお察しするばかりです。

感染者数も目に見えて減少し、旅行や観光への関心も戻りつつあるようです。ただ減少の理由がまだはっきりと示されない中では、まだ気軽には出かけにくいというのもひとつ

本音かもしれません。目に見えぬものに振り回され続けたこの一年半で、人の愚かさ、恐ろしさ、醜さを見せる報道も多かった気がします。それでも同時に身近に寄せられる思いやりや、配慮や、ささやかな交歓に励まされたというのも正直なところでは。たまたま目にした、大学の休校やリモート授業が続く学生さんたちへのインタビュー記事で多かったのは、やはり「友人に会いたい」「人と関わりたい」という趣旨の答えでした。一人暮らしの最初からずっと孤独を強いられる、でも実家にも簡単には帰れないというのは、気持ちも塞がって当たり前ですね。ここ最近の、静まり返っていた都心のオフィス街もいつのまにか人の流れが戻り、以前と変わらぬ姿を取り戻す映像を視るにつけ、人と関わって過ごす事に、私たちがいかに重きを置いて暮らしているかを改めて感じます。日本人だから！という声も一理あるかもしれませんが、それでも、このウイルス禍が二度とあり得ぬものだとは言えない。それどころかこれだけの環境の激変を人間が引き起こしてきた以上、リモートや機械化の流れが一つの潮流となることは止まらないでしょう。けれども同時に、二十年ほど前、生活にインターネットの存在が増し始める中で見た自動車のCMの親子の会話を私は思い出さずにいられないのです。祖父母の家に向かう途中の車の中、手

紙の代わりにメールでやりとりをし、画面で話せるようになることを知った小さな男の子は不安にかられて母親に向かって尋ねます。

「じゃあもうこれからは、お祖母ちゃんちに会いにいかないの？」

隣の母親は笑って返します。

「いいえ、そうはならないところが人間の素敵なところなの！」

どうかこのさきもずっと、人間が素敵であります、ように。

・ひ・と・り・ぐ・み・と

北城町 能登保子

「デイホームとなりぐみ」ある日の受付で、

「先週ね、鍵を落としちゃって」

「えー？ そうなんですか」

Aさんは会場近くにお住まいです。ご家族がお勤めで一人になるので「ー」と、となりぐみに来ておられます。笑顔が素敵な利用者さんです。「となりぐみ」ではお昼ご飯の盛り付けを担当してもらっています。お住まいはマンション、どうやって家に入ったんだろうか。ゆっくりお話を聞きました。

鍵がないのに気付き、歩いて十分位の所の交番に行って相談。お巡りさんが自宅から「と

なりぐみ」の会場まで一緒に歩いて探してくれたようですが見つかりませんでした。交番に戻ってあらためて話をしたそうです。

「ご家族で鍵を持っている人はいませんか？ここに持ってきてくれる人はいませんか？」

「あ、孫が近くに勤めています」

お巡りさんが連絡を取ってくれて、間もなくお孫さんが来てくれるたそうです。

親切なお巡りさんと優しいお孫さんですね。良かったです。

「デイホームとなりぐみ」は、利用者とボランティアのほぼ全員がワクチン接種を終えた七月中旬前後は毎週開催できましたが、その後は市内で感染者が毎日のように確認されて、お休みが続いています。

消毒、マスク、手洗い、窓を開けて換気など、できることをきちんとやって、早く皆さんにお合いただける日が来ますように願っています。

※本文は「認知症の人と家族の会新潟県支部だより『越佐』」からの転載文です。

お笑いバラエティーか？

山崎隆昌

足しげくとまではいかぬが、年に数回は東京、新潟等のコンサートに足をはこんでいた。

生演奏を聴くのは、紡ぎ出される音とともに、演奏者の息遣いや、顔の表情、体の動きも加わり、表現される曲全体を身に受けている感じがして直に音を楽しめた。

さらに言えば、コンサートの後、まだ音が耳底に残る心地良い中で、居酒屋で一杯やりながら芳醇な味を楽しむ至福の時間を持てた。残念ながら昨年二月より続くコロナ禍での「3密」行動制限。それで今は、好きなCDやレコードを聴き、はたまたTVの音楽番組を探して耳目を寄せて楽しんでいる。

ところで、一部のTV音楽番組が変わって来ていることが気になる。まるでお笑いバラエティー番組を視ているかのようだ。恐らくお堅いとされるクラシックに視聴者を楽しませるためだろう。視聴率競争に勝つためか。

ピアニストのユリアンナ・アウデーワはパンツスーツ姿で知られているが彼女は言う「豪華なドレスで『絞首台』の曲を演奏したときにとても違和感を覚えたの。演奏者も聴衆も見た目を気にせず音楽に集中したいと思っ

た。それからパンツスーツにしたの」

今、TVに限らず社会全体の表現が“演出過多”に思えるのは私だけであろうか。

衆議員選挙が始まる。機関銃のように放たれる言葉は、美辞麗句のオンパレードだ。

孔子は「巧言令色鮮し仁」と教えているが。

ワン公物語

—華のつぶやき—

(24)

山崎 華(慎子代筆)

私は華。パグ犬の雌。十三歳十カ月。でも私の時間は永遠に止まってしまったのだ。

そのことを知った幾人もの人が花を供えて下さったり、母さん達に慰めの言葉をかけてくれた。母さん達も嬉しかったけど、私は本当に嬉しかった。みんな有り難う！

そして、あちこちから「華ちゃんをつぶやきが聞こえなくなるなんて、どうするつもり？」という心配の声も届けられた。

でもね、大丈夫、私はこれからもつぶやくことは止めませんから。だって沢山の想い出を置いてきたからね。

母さんの声が聞こえる。私がいなくなってから、母さんは時々私の名を呼ぶようになって。はな。はな。そして母さんは少し涙ぐむ。誰の歌だったか「君の名前を呼べば切ないよ」母さんはその部分だけを覚えていて、母さんのお母さんや私の名を呼んで寂しい気持ちになってしまいうらしい。その名を口にするので、更に深まる哀惜、いとおしさ、懐かしさ、その思いの確かな波紋の拡がりに、名を呼ぶことの意味を改めて知らされているらしい母さん。マ、イイカ！

ところで 若い頃の母さんは料理にあまり興味がなかったそう。小さい頃からお手伝いは全て四才年上のお姉ちゃんに押し付け友達と遊ぶのに夢中だったらしい。だから山崎の家に来て殆ど何もできなかったんだって。でもね母さんの名譽のために言っておくけど「慎子さん、豆を煮るとそばのしたじ作るの上手だねえ」うんと若い頃、睦おばあちゃんにほめられたんだよ。ほめられて伸びる典型的なタイプの母さんはすっかり気を良くして、睦おばあちゃんの傍らで手伝いをしながら料理の楽しさを知るようになり、今ではすっかり台所の人になったという次第。

そうそう、私達ワン公が決してたべてはいけない物がいくつあるのだけれど、その最たるものはネギ類ということ知ってた？ 今から二十年前だから、私はまだ生まれていなくて、蓮姉ちゃんが小さかった頃、珍しくお寺でお通夜、お葬式の一切をさせての申し出があり、大勢の人達が出入りして寝泊まりをした時のことだ。当然飲んだり食べたりもあるわけで、火葬場に行く段になって全員が慌てて出かけていった。「あとで片付けますから」と言いおいて。

や、暫くあって、母さんが蓮姉ちゃんの姿が見えないことに気付いた。おとなしい蓮姉ちゃんは、つながれたり、囲われたりするこ

ともなく家の中を自由に動き回っていたのだ。「れーん、れーん！」と必死で呼びますが、やがてお通夜に使われていた部屋に辿り着きワン公発見、あろうことか蓮姉ちゃんは禁断の酔豚にありついていたので！多分そのとき蓮姉ちゃんは至福の思いだったに違いない。ちょうどアニメ『千と千尋』の両親がトンネルを抜けた所で思いがけないご馳走を目の前に、我を忘れてむさぼってしまったように。

それからが大変、獣医さんに向かう途中、繰り返して吐き戻す蓮姉ちゃんに、母さんはすっかりうろたえて最悪のことも想像したそう。曲がりなりにも玉ネギに火が通っていたのが不幸中の幸いだったのか。ひどい場合は、お尻からも血を流してしまい、その時は命が危ないと言われて、祈るような思いで治療して頂き、何とか助かったんだって。

父さんによれば「蓮はあれから体質が弱くなったんだよね。」ということなんだけど。それ程ネギ類は我々ワン公にとって危険なものなんだよ。

それ以来、母さんはネギの調理には気を遣うようになり、今でもそのことを引きずっていて、ウツカリネギの端っこでもこぼそうものなら急いで拾うのだ。そしてその後「ああもう華はいないのか」と寂しさを募らせてしまう。

(多分・またね。)